



ビジネスにおける効率的な情報収集 -信頼性の高い情報源だけを検索するツール “SVP Biz Navi”のご紹介-

ビジネス環境は常に変化し続けており、正確性と信頼性を備えた情報は成果創出の前提条件となる。目標達成や収益拡大を実現するためには、状況に応じた情報収集を行い、それを戦略的に活用することが不可欠である。

特に、ユーザーのニーズ把握、競合他社の動向調査、市場の将来性予測といった要素を的確に理解することは、組織にとって合理的かつ実効性の高い意思決定を導く基盤となる。

■質の高い情報を得ることの困難さ

情報収集の過程において、有用かつ信頼性の高い情報を確保することは容易ではない。世の中には膨大な情報が存在しているが、その全てが正確で価値のあるものとは限らず、取捨選択のプロセスが不可欠となる。また、信頼性の高い情報であっても鮮度を欠けば意思決定の妨げとなり得る。

一次情報や専門的な調査は精度が高い一方で、入手には時間やコストを要する。加えて、インターネット検索で得られる情報は、アルゴリズムによる偏りなどで必要な情報を適切に抽出できないリスクも存在する。

■デスクリサーチとは

ビジネス情報を収集するにおいて、様々な手法が存在しているが、その中でも最も身近な方法がデスクリサーチである。デスクリサーチとは、すでに公開・発表されている情報を収集・分析する調査方法を指す。

調査対象はインターネットの情報に限定されず、政府機関の公式レポートや企業が公開する各種資料、さらには図書館などに所蔵される刊行物など、オンライン・オフライン問わない情報源が含まれる。これらは、新規の一次調査を実施することなく、効率的に情報を取得することが可能だ。

■デスクリサーチから得られる情報の種類

デスクリサーチで扱う二次情報は大きく定量情報と定性情報に分けられる。

定量情報とは、数値や統計により表される情報を指す。人口統計や経済指標といった公的データ、市場規模やシェア率、企業の財務情報、特許件数や輸出入統計などの数量的指標がこれに該当する。これらは客観的な比較や分析に資する情報として位置付けられている。

一方、**定性情報**とは数値では表せない、記述や言語による情報を指す。アンケートやインタビューから得られるユーザーの声、専門家による分析や提言、SNS上の口コミ、業界関係者のコメントなどが該当する。これらは文脈を理解する上で、重要な手がかりを提供する。

したがって、デスクリサーチは、定量情報と定性情報を組み合わせることで、事実と解釈の双方を網羅した多面的な分析を可能にする。



■情報収集における失敗

情報収集は意思決定を支える基盤である一方、その方法を誤ると意思決定の遅延や適切でない判断に繋がる可能性がある。

情報収集における失敗

目的の不明確化	まず挙げられるのは、情報収集の目的が不明確なまま進めてしまうケースだ。必要そうだからという曖昧な理由で情報を集めると、収集自体が目的化し、結果として情報が散漫になり活用に繋がらない。
時間配分の誤り	加えて時間配分の誤りも大きな問題である。特定の観点到に固執すると、本来は周辺情報や関連データを組み合わせることで推定可能な内容であっても「情報が存在しない」と結論づけてしまう。こうした非効率な収集を避けるためには、あらかじめ調査時間を設定し、成果が得られない場合には観点到を切り替える仕組みを導入することが有効である。
情報の整理不足	次に、情報の整理不足が挙げられる。大量に収集しても、必要に応じて活用できなければ意味をなさない。カテゴリー別に体系化し、ビジネスとの関連性を明確にした上で、必要な際に即座に活用できる状態にしておくことが重要である
情報源の偏り	さらに、情報源の偏りも問題となる。特定のメディアや媒体だけに依存すると、情報が偏在し、多角的な視点を欠くことになる。新聞、書籍、専門誌、Webサイト、SNS、口コミなど、複数の情報源を活用し、それぞれの特性を理解した上で適切に使い分けることが求められる。
デジタル情報への偏重	最後に、デジタル情報に偏った収集も課題となる。官公庁や業界団体の一部資料、調査会社のレポートには紙媒体でのみ提供されるものが存在する。また、紙資料は前後の文脈を踏まえた体系的理解を可能にするという利点を有しており、デジタル情報と併用することで分析の精度を高めることができる。

■情報収集を効率的に進めるポイント

情報収集を効率的に行うには、上記で挙げた課題を踏まえていくつかの点に注意しなければならない。

まずは、**収集の目的を事前に明確化**する必要がある。収集の方向性が曖昧なままでは、膨大な情報群から有用性の高い情報を抽出することは困難である。

収集の際には、**情報源の出典を常に意識**し、事実と意見の峻別、出典元や発信者の立場を考慮することが判断の精度を担保する上で不可欠だ。

さらに、Web上の情報は常に変動・更新することが前提となるため、**鮮度の高い情報収集を徹底**する必要がある。一方で、情報を網羅的に取得することは不可能であるため、取捨選択が求められる。

そして収集した情報は活用が可能な状態に整理しなければ意味がない。情報は、全体像を把握した上で必要な部分を精査することで、効率的かつ戦略的な情報活用が実現できる。



■Webサイトからの情報収集の課題

Web検索では膨大な情報が公開されている一方で、その利用には複数の課題が伴う。

《情報量の過剰さ》

情報量が過剰であるために、必要な情報に到達するまでに時間を要し、検索上位にはSEOを重視した集客目的の記事が並ぶ傾向がある。この結果、専門性よりも露出度が優先され、本質的に有用な情報が埋もれてしまうリスクがある。

《信頼性の不透明さ》

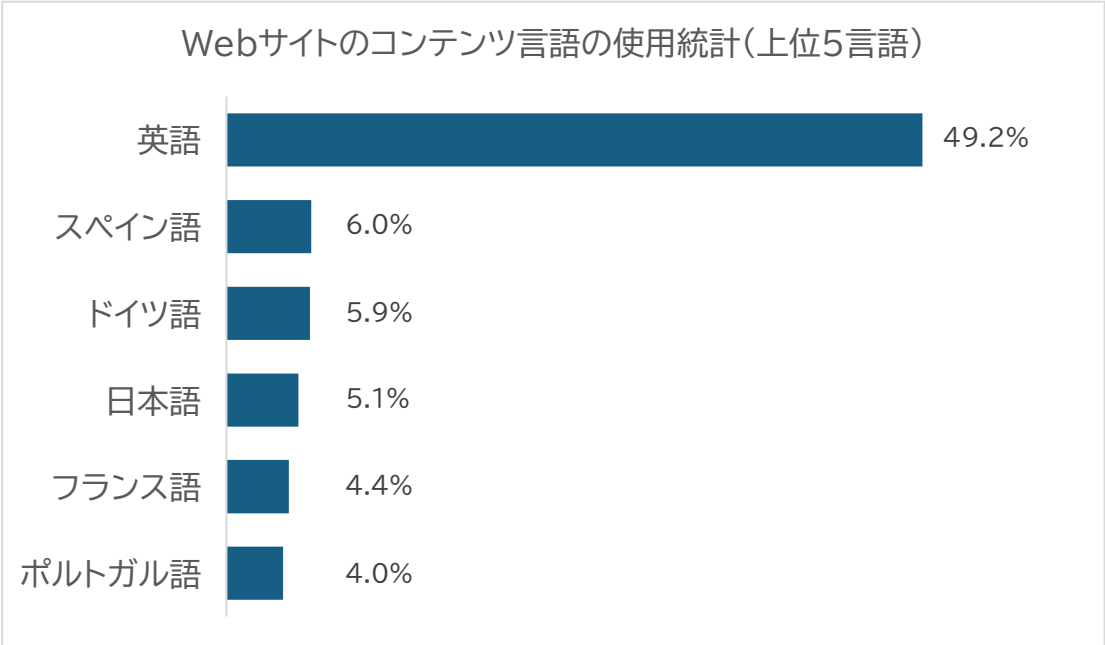
さらに、信頼性の不透明さも深刻である。フェイクニュースやデマ、プロパガンダが混在し、SNSや個人ブログには正確性の担保されていない情報が多数存在する。特に医療や金融のように誤情報が直接リスクに直結する分野では、情報源の信頼性を慎重に見極めることが不可欠である。

《言語や文脈の壁》

言語や文脈の壁も無視できない。Webコンテンツは英語が約49.2%を占めるのに対し、日本語はわずか5.1%にとどまっており、日本語検索だけでは有用な情報にアクセスできない場合が多い^{注1}。さらに、長文クエリや曖昧な検索意図に対しては既存の検索エンジンが的確な回答を提示できないケースも少なくない。

このように、Web検索は効率性と信頼性の両面に課題を抱えており、ビジネスにおける活用にあたってはこれらの制約を十分に認識した上で戦略的に運用することが求められる。

注1)https://w3techs.com/technologies/overview/content_language



※W3Techsによる統計(2025年9月19日時点)

■信頼性の高い情報源

Web情報については、このような問題を十分に理解した上で活用しなければならないが、精度の高い膨大な情報が存在しているのも事実である。インターネット検索を利用する最大の利点は、ローコストでスピーディーに様々な情報にアクセスできることであるが、質の高い情報に効率的に辿り着く一番の道は、優良な情報源を知っておくことである。

インターネット検索によって得られる情報の中でも、信頼性が高いWebサイトをいくつか提示する。

●官公庁・公的機関・研究開発機関・大学が公表しているデータ

官公庁では多様な統計を発表しており、大規模調査に基づくため客観性・信頼性が高い。多くはWeb上で公開され、ExcelやPDF形式でも入手可能である。

- ・内閣府、総務省、財務省などの官公庁
- ・日本銀行
- ・日本貿易振興機構
- ・新エネルギー・産業技術総合開発機構
- ・科学技術振興機構 など



●調査会社・シンクタンク・コンサルティング会社が公開しているデータ

調査会社・シンクタンク・コンサルティング会社が公開するデータは、専門的な分析手法に基づいており、市場動向や業界トレンドを把握する上で有用である。多くの企業や団体から依頼を受けて実施される調査であるため、実態に即した情報が期待できる。



●メディア・専門ディレクトリが公開しているデータ

社会や市場の動向をタイムリーに把握できる点で有効であり、一次情報に近く精度が高い。業界全体の動向や将来予測を踏まえた分析が含まれることも多い。

- ・全国紙、日本食糧新聞、電波新聞、週刊粧業等専門紙などのWebサイト
- ・ITmedia
- ・WIRED
- ・PRESIDENT Online
- ・日経BP など



●業界団体・各種団体が公開しているデータ

業界団体・各種団体が公開しているデータは、会員企業や関連事業者から直接収集した情報を基にしているため、一次情報に近く精度が高い。業界全体の動向や将来予測を踏まえた分析が含まれることも多い。

- ・日本経済団体連合会
- ・新経済連盟
- ・日本自動車工業会
- ・日本電機工業会
- ・日本冷凍空調工業会 など



●国際機関・各国機関が公開しているデータ

大規模かつ体系的な調査に基づき、調査項目や手法が統一されているため、国際比較や政策検討においても高い信頼性を持つ。

- ・国際連合(UN)
- ・欧州連合(EU)
- ・国際通貨基金(IMF)
- ・経済協力開発機構(OECD)
- ・国際エネルギー機関(IEA) など



■ツールを活用して効率的に情報収集を行う方法

本レポートで示した通り、インターネット検索においては、様々な課題がある。それを解決する一番の方法は、信頼できる情報源を確保することだ。私たちSVPジャパンは、長年のリサーチ経験に基づき、多くの優良な情報源を定義した上で、Web検索を行っている。この度、それらの信頼できる情報源だけを対象とした、当社オリジナルのWeb検索ツールを用意した。

本ツールは、SVPジャパンの情報コンサルタントが日常的にアクセスしている、信頼性の高いWebサイトの情報のみを対象に検索を行うことが可能だ。

「統計情報(マクロ・ミクロの経済情報を含む)」のほか、アンケート調査などの「調査結果」「市場調査レポート」「論文・文献情報」「出版・刊行物」などのオープンデータソースを、Googleが提供するプログラム可能な検索エンジン(Programmable Search Engine)に登録し、検索対象があらかじめ絞られた状態で効率よく検索が行える。

SVPジャパン オリジナルWeb検索ツール<SVP Biz Navi>

<https://www.svpjapan.com/search/>

近年、ビジネス情報の収集においても生成AIを利用することが増加している。生成AIは素晴らしいツールであるが、まだまだ不十分な点も多く、インターネット検索なしでは、十分な情報が取得できない場合も多い。

インターネット検索で情報の質と効率性を担保するためにも、是非、SVPジャパンのオリジナルWeb検索ツールをご活用ください。



1分でわかる

SVP会員制 ビジネス情報サービス



1.ビジネス情報収集における環境の変化

環境の変化が激しく、将来の予測が非常に困難な時代に入

変化①

社会環境の変化



- ✓戦争の勃発
- ✓新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)の流行
- ✓気候変動

変化②

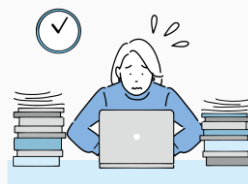
ビジネス環境の
変化



- ✓テクノロジーの進化
- ✓グローバル化
- ✓新世代の台頭
- ✓破壊的企業の躍進



組織的な課題に直面



2.企業が直面している3つの課題

これまで以上に、迅速で的確な情報収集・分析能力が求められています

1

幅広いビジネス 情報のアクセス

幅広い事象に関して、
スピーディーにアクセスできる
環境の整備



2

質の高い情報の獲得 (重要領域での質の担保)

信頼できる上質な
ビジネス情報を収集できる
環境の構築



3

成長が期待される 新市場の動向把握

事業機会の可能性がある全ての
市場や企業動向を認識する
ケイパビリティの有無

3.当社サービスが提供する価値



ビジネス情報に関する皆さまの課題を当社が解決いたします！

SVP会員サービス



解決① クイックリサーチ

I.

膨大なビジネス公開情報へアクセスし、スピーディーに最適な情報を提供

解決② プロジェクトリサーチ

II.

カスタム調査を通じて、質の高いビジネス情報と分析アウトプットを提供

解決③ SVPナレッジ

III.

当社が定義する、メガトレンドや注目市場の動向予測レポートを提供

4. サービス一覧



年間契約で3つのサービスをご提供します



I. クイックリサーチ

活用シーン

- ・日々のリサーチ作業をアウトソースして、分析や戦略立案など付加価値業務に注力したい。
- ・ニーズに合ったビジネス情報を、スピーディーにわかりやすくまとめて提供して欲しい。

特徴

- ✓幅広いビジネス公開情報の活用
- ✓プロのリサーチャーによるニーズ把握と最大2時間の調査
- ✓わかりやすくまとめたレポートでご報告

納期 最短2日営業日以内

III. SVPナレッジ

活用シーン

- ・メガトレンドを中心とした、将来、事業に影響を与える環境要素は何か知りたい。
- ・①Z世代、②サステナビリティ、③テクノロジー、④新興国を含む海外市場、⑤破壊的企業の動向を把握したい。

内容

- ✓SVPメールマガジン
- ✓SVPインサイト
- ✓SVP注目市場分析
- ✓SVPトレンド調査

配信頻度 月1回以上

II. プロジェクトリサーチ

活用シーン

- ・公開情報では公表されていない、市場や業界、企業、消費者の情報収集がしたい。
- ・自社の事業領域に関する、質が高く、ニーズに即した情報を入手して、ビジネスに即活用したい。

特徴

- ✓広範なカスタム調査・分析
- ✓デスクリサーチ
- ✓ヒアリング調査
- ✓Webアンケート調査

納期 調査内容に応じて決定

5.導入実績



年間調査実施数
約15,000件



商用DBシステム利用
20システム



国内外企業財務情報
4,000万社以上



SVPネットワーク
世界40カ国の広がり

日本の売上高トップ100社中7割の企業でのご利用実績 導入企業600社以上





—SVP JAPANのサービスについて—

2営業日以内に調査結果をご報告

クイックリサーチ

[詳しくはこちら](#)

カスタムメイドのリサーチサービス

プロジェクトリサーチ

[詳しくはこちら](#)



—各種お問い合わせ—

資料ダウンロード

[こちらをクリック](#)



お問い合わせ

[こちらをクリック](#)



s'il vous plaît
SVP JAPAN
株式会社SVPジャパン

まずはお電話でもお気軽にお問い合わせください。

TEL:03-3249-0771

